

現在の景気：県内景気は、新型コロナウイルスの感染状況に左右されつつも、全体として持ち直しの動きが続いている。まん延防止等重点措置が3月21日をもって解除され、観光や飲食等の対面サービス業種が回復しつつあるほか、百貨店の季節物衣料などの販売も改善している。製造業では、コスト高の影響がみられるが、世界貿易回復などに支えられた改善基調を概ね維持している。この間、建設需要も、交通インフラ整備や物流施設などの官民プロジェクトの進展や都市部を中心とした堅調な住宅ニーズなどを背景に、底堅く推移している。

3か月程度の見通し：感染の拡大抑制を前提に個人消費は当面持ち直しが進むとみられる。製造業では標準シナリオでは改善基調が維持される見込みだが、ウクライナ情勢の長期化によるエネルギー価格の上昇や世界貿易の下振れリスクを十分に注視する必要がある。

個人消費：①上向き基調。②3月の県内百貨店（存続店ベース）の売上は、前年同月比3.4%増と5か月連続で前年を上回った（前々年比で27.5%増）。外出機会の増加などから、季節物衣料の動きが目立った。外出意欲の高まった4月も好調が続いた模様。3月の自動車登録台数は同16.8%減と、9か月連続で前年を下回った（前々年比は16.5%減）。半導体の供給不足などによる減産の影響で、一般乗用車（前年同月比11.0%減）、軽乗用車（同22.7%減）ともに前年を下回った。

住宅建築：①増加基調。②3月の新設住宅着工戸数は前年同月比11.1%減少し、2か月ぶりに前年を下回った。貸家（同12.2%増）は増加したが、持家（同4.7%減）、分譲（同38.6%減）は減少した。

設備投資：①増加。②国土交通省の「建設着工統計」（非居住用）によると、3月の工事床面積（年度累計）は前年度比21.7%増加し、工事予定額も同13.5%増加した。千葉経済センターによる県内企業179社アンケート調査（4月実施）では、21年度の設備投資実績（全産業）は期初計画比13.7%下方修正され、20年度実績額を14.7%下回った。22年度の期初計画は、21年度実績額を89.3%上回っている。

公共工事：①減少。②3月の県内公共工事請負額（年度累計）は、前年同月比9.0%減少した。県（同5.0%増）は増加したが、独立行政法人（同47.4%減）、市町村（同3.8%減）、国（同0.6%減）は減少した。

輸出：①増加。②3月の成田、千葉、木更津3港合計通関輸出額は、前年同月比31.4%増と13か月連続で増加した（前々年比は54.4%増）。成田空港では、半導体等製造装置（前年同月比53.7%増）や科学光学機器（同9.0%増）を中心に、同30.0%増と13か月連続で前年を上回り、輸入額とともに単月で過去最高となった。千葉港は、石油製品（同246.6%増）や鉄鋼（同26.4%増）などの増加により、同54.0%増と11か月連続で前年を上回った。木更津港は、鉄鋼（同46.5%増）などの増加により、同39.5%増と12か月連続で前年を上回った。

生産活動：①足踏み。②2月の県鉱工業生産指数（季調済）は、89.4（前月比3.2%低下）と3か月連続で低下した。電子部品・デバイス（同17.3%上昇）などは上昇したが、主力の化学工業（同5.2%低下）、食品工業（同11.4%低下）などが低下した。

観光：①持ち直し傾向。②観光・宿泊施設の入り込みは個人客を中心に持ち直しつつある。3年ぶりに行動制限のないゴールデンウィークは、好天に恵まれた後半を中心に、観光地や商業施設などで賑わいがみられた。

雇用情勢：①回復基調。②3月の有効求人倍率（季調値）は、前月比0.01ポイント上昇の0.90倍と、3か月連続で上昇した。有効求職者数（同1.7%減）の減少が有効求人数（同0.2%減）の減少を上回った。

【トピックス】

- 国内5番目となるディズニーホテル「トイ・ストーリーホテル」が開業した（4月5日）。
- 成田空港株式会社は、LCC需要の取り込みに向けて第3ターミナルを拡張した。出発ロビーの拡大などから、受け入れ可能利用者数は年間900万人→1,500万人へ拡大する（4月5日）。
- ZOZOマリンスタジアムにてアクションスポーツの世界的競技大会「Xゲーム」が国内で初めて開催された（4月22日）。
- 旭市がイオンタウン（株）や大和ハウス工業（株）らと官民連携で推進する新しいまち「生涯活躍のまち・みらいあさひ」が街びらきした（4月23日）。